

専門研修プログラム名	精神科領域専門医研修プログラム	専門研修プログラム
基幹施設名	独立行政法人国立病院機構 小諸高原病院	
プログラム統括責任者	前田 直樹	
専門研修プログラムの概要	精神科病棟（急性期、亜急性期、慢性期）、認知症病棟、重症心身障害者病棟、医療観察法病棟、ならびに外来で精神科診察の基礎、心理教育、疾病教育や基本的な精神療法を学ぶ。また亜急性期病棟には児童思春期の患者も受け入れるため、児童から高齢者まで幅広い症例を扱う。精神科病棟にはアルコール関連障害、薬物依存症患者入院している。担当した各症例に対して個別にカンファレンスを行い、精神病理、精神薬理、画像診断の各論を学んでいく。その中で興味をもった症例は学会発表を行い、必要に応じて論文の指導を受ける。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	一年目は小諸高原病院で研修を行う。必要に応じて2年目以降は研修協力病院での研修を行うが、当院での継続した研修も可能である。直接指導する指導医のもとで研修を行い、必要に応じて他の専門分野の医師の序言も得る。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	精神科医師として必要な知識、専門医試験の合格をめざし、また精神保健指定医の習得を目指す。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	看護師、ケースワーカー、作業療法士、医療事務、理学療法士、臨床心理士など他職種カンファに参加して技能を学ぶ
	学問的姿勢	絶えず疑問点を調べ、受け持ち患者への予習と復習をおこない、自己研鑽して、不明な点は上級医が相談にのり指導する。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	医師として多職種と連携しながら専門性を発揮して倫理性、社会性を身に着けていく。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	一年目は小諸高原病院で研修を行う。二年目以降は小諸高原病院を基幹として本人の希望で3か月ごとの他病院での研修を行うことも可能である。
	研修施設群と研修プログラム	信州大学医学部精神医学教室、県立こころの医療センター駒ヶ根、下総医療センター、国立精神神経センター、佐久医療センター、さいがた医療センター、北アルプス医療センターあづみ病院、栗田病院と連携してプログラムを行う。
	地域医療について	当院を含め、上記、施設群には地域医療の中核を担う病院もあり、研修期間中に地域医療も学ぶ。
専門研修の評価	専門研修委員会を開き、指導医の評価を確認して、不足分があれば、他分野の指導医の協力を仰ぐ。	
修了判定	専門研修委員会を開き、決められた研修を終了後に終了判定を行う。年度ごとに研修ができていない分野を確認して、不足がないようにする。	
	専門研修プログラム管理委員会の業務	専攻医委員会の多職種評価を行う。また議題にあがった問題については、専攻医に応じて個別にサポートを行っていく。

専門研修管理委員会	専攻医の就業環境	8:30-16:30までの研修時間であり、月に数回、当直を行う。年に2回まで学会の参加費用を病院で負担して参加することができる。また時間外の学習会や講演会への参加を認める。
	専門研修プログラムの改善	専攻医から提案された議案について指導医で協議して改善を行っていく。年2回、定期的に専門研修管理委員会を開き、必要に応じて臨時開催する。
	専攻医の採用と修了	日本精神神経学会の受験日程に合わせて試験を行い採用の発表をする。専門研修プログラム終了後に管理委員会を開き終了の認定をする。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	出産子育て介護や不慮の事故が起こった時には、指導医との協議の上でプログラムの休止・中止を検討する。また異動希望やプログラム外研修が必要であれば随時相談して対応する。
	研修に対するサイトビジット (訪問調査)	必要に応じて適宜実施する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	前田直樹(精神科医長)、村杉謙次(院長)、高橋未央(副院長)、城甲泰亮(診療部長)、佐々木恵理子(内科医長)、斎藤勝仁(精神科医長)、庄田秀志(精神科医師)	
Subspecialty領域との連続性	当院では老年精神医学会専門医、認知症専門医の受験資格を得ることができる。また医療観察法病棟があり精神鑑定・司法医療について学ぶことができる。	